

(報告書様式 C)

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	愛知県
-------	-----

学校の概要 (平成 15 年 4 月現在)

学校名	豊川市立牛久保小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	3	2	3	2	3	2	17	
児童数	62	82	71	83	79	86	5	468	27

研究の概要

1. 研究主題

意欲をもって学び続ける子 ～活動を支える3つのBase (心・頭・技)を育てながら～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・ 1～6年 算数 子どもの理解度に差が出やすい教科であるため。
・ 1～6年 国語 基礎学力の向上に効果的な指導が期待できるため。
・ 4～6年 理科 教科担任を導入するのに取り組みやすい教科であるため。

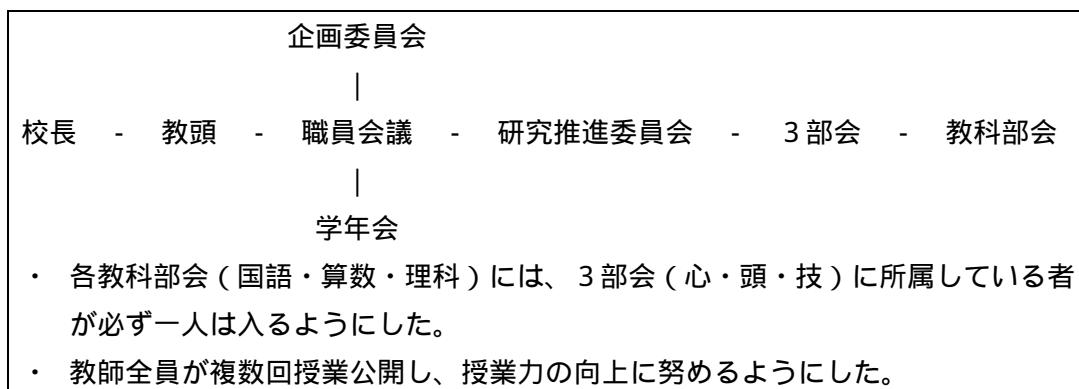
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 意欲をもって学び続ける子 ～活動を支える3つのBase (心・頭・技)を育てながら～ 仮説 Base 1・・・「心」 自己の存在を肯定的にとらえ、お互いを認め合う心を育てる Base 2・・・「頭」 学びを支えるもととなる基礎学力をみがく Base 3・・・「技」 将来に生きる、学ぶ技能をみがく という3つのBaseを育てる。それをもとに、子どもたちが活動し、わかる授業を展開することで、意欲を持って学び続ける子どもの育成を図る。 研究内容・方法 ①算数の授業で1, 2年はTTを、3～6年ではクラスを2分した習熟度別コース授業を2学期から行っている。習熟度別コース授業については、全単元ではな
--------	---

	<p>く、学年ごとに実施単元を決めている。</p> <p>読み・書き・計算を基礎学力として捉え、毎時の授業の中で漢字や計算練習を有効に取り入れ、鍛えるべき場面を意識し基礎学力の定着をはかりながら、有能感を育てるようにしている。</p> <p>③エンカウターの考え方（振り返りと認め合い）を授業の場面に意識して取り入れ、受容感や学習の継続を図るようにしている。</p> <p>④FT（フロンティアタイム）を隔週水曜日に設定し、4，5，6年生の基礎学力の向上を図っている。具体的には漢字・計算練習、視写、音読、暗唱、計算音読カード等である。</p> <p>教師全員が複数回授業公開し、視点を決めて率直な意見交換をし、授業力の向上に努めるようにしている。</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>意欲をもって学び続ける子 ～活動を支える3つのBase（心・頭・技）を育てながら～</p> <p>仮説</p> <p>Base1・・・心 - 自己の存在を肯定的にとらえ、お互いを認め合う心を育てる</p> <p>Base2・・・頭 - 学びを支えるもととなる基礎学力をみがく</p> <p>Base3・・・技 - 将来に生きる、学ぶ技能をみがく</p> <p>という3つのBaseを育てる。それをもとに、子どもたちが活動し、わかる授業を展開することで、意欲を持って学び続ける子どもの育成を図る。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>①算数の授業で1, 2年はTTを、3～6年ではクラスを2分した習熟度別コース授業を、学年ごとに実施単元を決めて行う。</p> <p>教科指導における「心・頭・技」を明確にし、評価につながる授業づくりをする。</p> <p>③毎時の授業の中で漢字や計算練習を有効に取り入れ、鍛えるべき場面を意識し基礎学力の定着をはかる。</p> <p>④エンカウターの考え方を授業の場面に取り入れ、受容感や学習の継続を図るようにする。</p> <p>毎日授業後10分間を「フロンティアタイム」（仮称）とし、基礎学力の向上を図る。具体的には漢字・計算練習、視写、音読、暗唱、計算音読カード等である。</p>
--------	---

(3) 研究体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・ 習熟度別授業では、個人差も少なく能率的に指導できた。また、理解度が同程度の集団なので、普段発言しない子ものびのびと積極的に発言できた。
- ・ 教科担任制にしたことで、教師の専門性が生かされ、気付きや発想を生かしながら、子どもの考えの筋道に沿った授業を展開することができる。
- ・ 1～6年の問題プリントを一ヶ所に揃え、授業やフロンティアタイムでいつでも使えるようにしたため、自分に合ったものを選択でき意欲的に取り組めた。

2. 今後の課題

- ・ 習熟度別の授業ではきめ細かな対応が可能になるが、つい教え込んでしまいがちになる。個別指導にならないよう、全体で考え合うことが大切である。そのためには、どのような授業形態であれ、教師の授業力の向上を図ることが必要である。
- ・ 教科指導における3つのBaseを明確にし、評価につながる授業づくりをする。
- ・ 目指す授業像を子どもにも知らせ、子どもと共に授業づくりをしていくことも、授業改善の一つの方向と考える。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 自作問題による、学期ごとの基礎学力調査
- ・ 定期的な学力検査の実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 「研究発表会」 平成16年10月29日（金） 場所：豊川市立牛久保小学校
テーマ：「意欲をもって学び続ける子
～活動を支える3つのBase（心・頭・技）を育てながら～
対象：東三河教育事務所管内及び県内学力向上フロンティアスクール

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	1 5年度からの新規校	1 4年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	